

長崎五島(福江・岐宿)方言における可能表現

著者	新居田 純野
雑誌名	長崎外大論叢
号	17
ページ	81-92
発行年	2013-12-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1165/00000082/



*The Journal of
Nagasaki University of Foreign Studies
No. 17 2013*

長崎五島（福江・岐宿）方言における可能表現

新居田 純 野

Potential Expressions in Fukue and Kishuku Dialect
in Goto Island, Nagasaki, Japan

NIIDA Sumino

長崎外大論叢

第17号
(別冊)

長崎外国語大学
2013年12月

長崎五島（福江・岐宿）方言における可能表現

新居田 純 野

Potential Expressions in Fukue and Kishuku Dialect in Goto Island, Nagasaki, Japan

NIIDA Sumino

Abstract

This paper is concerned with potential expressions in Fukue and Kishuku dialect in Goto island, Nagasaki, Japan. Potential expressions in Japanese are classified into potential and actual. Furthermore, it has subclassifications- potentiality in emotion, ability, internal condition, external condition, attribute in an object. In two dialects they are expressed by using [-yuru], [-raru], [-kiru] and others.

In this paper, after having compared these two dialects, I will present their overviews.

1. はじめに

九州方言における可能表現形式は、地域によってかなり多様性をもっているといわれている。九州全域にわたる可能表現形式の分布については、九州方言学会（1969）『九州方言の基礎的研究』や神部（1987）「九州方言の可能表現法 - その存立と特性 - 」などで詳しく論じられているが、特に九州方言学会（1969：274）では「九州方言では、「能力可能（一定の動作が、その動作主体の能力に基づいて、成就実現すること）」と「状況可能（一定の動作が、その動作主体の立つ、客観的状况に支えられて、成就実現すること）」とが異なった叙法によって表わされる地域が多い。」とされている。

古瀬（1983：177）が、五島では「集落間の距離的差以上のものが方言差としてある」と述べているように、顕著な方言差が認められるので、本来であれば各地域ごとの調査・分析が必要だと思われる。そこで、まず本稿では福江と岐宿について調査を行い、これまでに詳細な調査のおこなわれていない可能態についてその特徴を概観したうえで、両地域の対照比較を行い、これらの地域における可能の意味を担う表現形式のタイプを整理していくことにする。また、他地域と同様、この両地域における方言話者が高齢化しており、今なお残されている方言を調査して記録していくことは非常に重要なことであると考えられる。

2. 可能表現形式について

渋谷（2002、2006）では、可能について、「人間や動物などの有情物（ときに非情物）が、ある動きを意志的に行おうとするとき、それが実現することができる（肯定文の場合）／できない（否定文の場合）」といった意味を表す、動詞の文法的・意味的なカテゴリーのことをいう」と定義している。この可能は、「潜在可能（ある行為をおこなうことの可能／不可能について、その動きを実際に発動するか否かは問わず、それをおこなう動作主体の力や周りの条件がそろっているかどうかだけを述べる）」と「実現可能（一回的な動きについて、その動きの発動や実現の有無を含んで述べる）」の二種

がある。さらに主体内部にほぼ永続的に存在する能力的な条件による「能力可能」、主体内部に永続的に存在する心情（性格）的な条件による「心情可能」、主体内部の、病気や気分などの一時的な条件による「内的条件可能」、主体外部の条件による「状況可能（外的条件可能）」を下位分類としている。また、「状況可能（外的条件可能）」は、永続的であることも一時的であることもあり、永続的な場合は「属性可能」となる。

本稿では、基本的にはこの分類に従うが、その属性の持ち主の意志によって制御することができない「属性可能」は「状況可能（外的条件可能）」とは別項目で扱うこととする。また、「能力可能」の下位分類としてあげられている「肉体的な力、知識」は、本稿では「生得能力、獲得能力」に属するものとする。

2.1 九州方言（長崎）における可能表現について

九州方言は、全国的にみて可能表現形式が豊かで特色に富んでいて、一部の地域を除いて、「能力可能」と「状況可能（外的条件可能）」の形式と機能が顕著な対応を示しており、異なった叙法によって表わされる地域が多い。

九州方言学会（1969：275）によれば、肥後および日向北部を含む中・北部一帯では、「能力可能」は「飲ミキル」などのように「～キル」が、島嶼を含む西北部一帯では「飲ミユッ」のように「～ユル」が分布するが、佐賀北部などでは「～ユル」が優勢であり、県一般には「～ユル」が多いとされている。一方、「状況可能（外的条件可能）」は、多くの地域で「～（ラ）ルル」によって表わされているとある。

3. 五島方言における可能表現について

上村（1970）では、「-wa juQ, (-wa eN)（本稿の～ユル（ユッ）／～エン）」は動詞の連用形について、おもに能力可能を示し、「-ruQ, raruQ, (-reN, rareN)（本稿の～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン）」はおもに状況可能で用いられるとしている。さらに、「-dasu, (-dasaN）」は、機会・余裕があって可能だという意を表わすが、あまり盛んに使われておらず、福江、有川地方で稀に使う人があるとしている。また、古瀬（1983：203）には、状況可能の/-ruQ/(/-reN/)・/-raruQ/(/-rareN/)、能力可能の/wajuQ/・/-dasu/などがあると記述されているが、各地域での詳細な調査および分析はなされていない。

3.1 調査の内容

大西拓一郎編（2002）『方言文法調査ガイドブック』所載の「可能」の調査項目（渋谷勝己氏作成）を使用して、長崎県下五島の福江と岐宿の二か所で調査をおこなった。（具体的な調査項目については、大西編（2002）を参照）。

回答者は、福江では66歳の男性、岐宿では76歳の男性で、両者とも両親、配偶者とも五島の出身の五島方言話者である。また、回答者はその地域を長期離れることなく、その地域に生活の基盤をおいている、その地域の方言話者であり、五島方言に対する造詣が深く、また五島方言の保存にも尽力されている方たちである。

本稿では、福江と岐宿の両地域の可能の表現形式を対照するが、この両地域でどのような表現形式

をとり、どのような可能の意味分類を表わすのかをみていくことにする。

3.2 福江における可能態の表現形式

長崎県福江の男性(66歳)では、「可能」を表すのには「～ユル(ユッ)／～エン」、「～(ラ)ルル(～(ラ)ルッ)／(～ラ)レン」、「～キル(キッ)／～キラン」の三つの形式が使用されている。三形式は主に表1のように使い分けられる。

表1 福江における可能態の表現形式

表現形式	可能の分類	用例	
I「ユル」：「～ユル(ユッ)／～エン」	能力可能	生得(人間・個体)	(1)(2)(3)
		獲得(人間・個体)	(4)(5)(6)(7)
		総称	(8)(9)
	心情可能	(10)(11)(12)(13)	
	内的条件可能	(14)(15)(16)(17)	
II「ラル」：「～(ラ)ルル(～(ラ)ルッ)／(～ラ)レン」	状況可能(外的条件可能)	(18)(19)(20)(21)	
	能力可能(場所・道具)	(22)(23)	
	状況可能(外的条件可能)	(24)(25)(26)(27)(28)	
	主体以外の属性可能	(29)(30)(31)	
III「キル」：「～キル／～キラン」	能力可能(人間以外(道具・場所を除く))	(32)(33)(34)	

表2 福江における可能態の意味とその表現形式

	キル	ユル	ラル
能力可能	○	○	○
心情可能	×	○	×
内的条件可能	×	○	×
外的条件可能	×	△	○
属性可能	×	×	○

○：使用形式、×：非使用形式、△：使用されるが用例数が少ない

木部(2004:11-13)の福江市の調査結果^①でも、「～ユル(ユッ)／～エン」、「～(ラ)ルル(～(ラ)ルッ)／(～ラ)レン」、「～キル(キッ)／～キラン」の三つの形式が使用され、特に「～キル」は長崎市と同じように、可能全般にわたって使用されるとある。この「～キル／～キラン」に関しては、神部(1987)では、「九州全般では古く根づいた「～ユル」形式の上に、東南部から新形式の「～キル」が広がりつつある。」、愛宕(1978)では「～キルは若年層中心に見いだされる」とある。これは、木部(2004:12)の調査の回答者である福江の35歳男性の可能表現形式「～ユル(ユッ)／～エン」、「～(ラ)ルル(～(ラ)ルッ)／(～ラ)レン」、「～キル(～キッ)／～キラン」の中で、「～キル(～キッ)／～キラン」が、「状況可能(外的条件可能)」の一部(「泳ぐ」、「切る」、「寝る」、「食べる」)を除いて可能全般にわたって使用されるとしているという調査結果からも、福江における若い世代の方言にもこの傾向がみられるといえるだろう。

一方、本調査での66歳の男性は、「能力可能」の中でも「人間以外の能力可能(道具・場所を除く)」に関しては「～キル(～キッ)／～キラン」を用いたが、その他の可能では、「～ユル(ユッ)／～エン」、「～(ラ)ルル(～(ラ)ルッ)／(～ラ)レン」の二形式で表わしている。

神部(1987:163)では、「能力可能」の表現形式として最も広い領域を占めるのが「～キル」であり、完遂・完工を表わすこの「～キル」が、九州方言では意志・能力の完全な発揮を表わして、「能

力可能」に転じたと考えてよいとしている。しかし、この福江方言における調査では「能力可能」に関していえば、「人間以外の能力可能（道具・場所を除く）」は「～キル」によって表わされ、「人間の能力可能」および「人間・動物の能力の総称」は「～ユル（ユッ）／～エン」で表わされ、「場所や道具の能力可能」は「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」で表わされるというように、この三つの表現形式がそれぞれの意味内容によって分担している。

また「内的条件可能」は「～ユル（ユッ）／～エン」で表わされ、「状況可能（外的条件可能）」は、主に「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」で表わされる。しかし、「主体による行動決定不可の外的条件可能」の多くは「～ユル（ユッ）／～エン」で表わされる。またもう一点特徴的な点は、「主体以外の属性可能」が「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」で表わされることであるが、これは「人間以外の能力」に近いからだと考える。

I. 「～ユル（ユッ）／～エン」

【能力可能（生得）】

- (1) オラー ウンマレツツ カラダン ヨワカケン オヨガエンヨ
私は生れつきからだ弱くて泳ぐことができない。
- (2) ワタシャ サケワ チットン ノマエントヨ
私は酒を少しも飲むことができない。
- (3) サカズキ イッパインサケグラナラ、 ワタシダッテ ノマユッヨ
盃一杯ぐらいの酒なら、私だって飲むことができる。

【能力可能（獲得）】

- (4) ウチン マゴワ マーダ ヒトッデ キモンナ キラエンヨ
うちの孫はまだ一人では着物を着ることができない。
- (5) レンシュウワ シヨッパッテン、マーダ 100メートルイジョウワ オヨガエンヨ
練習しているけどまだ100メートル以上は泳ぐことができない。
- (6) ワタシワ ウミデ 10メートルイジョウ モグラユッヨ
私は海で10メートル以上もぐることができる。
- (7) ワタシワ ドガンナ ムンカヒカジデン ヨマユッヨ
私はどんな難しい字でも読むことができる。

【能力可能（総称）】

- (8) ペンギンナ ソラワ トバエン
ペンギンは空を飛ぶことができない。
- (9) ニンゲンナ ミラインコッパ カンガエヤユット
人間は未来のことを考えることができる。

【心情可能】

- (10) ヨルン ハカヤナンヤ アッポシテ ヒトツジャ イカエンヨ

夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない

- (11) ラブレターヤナンチ ハンカシュシテ カカエンヨ
ラブレターなんてはずかしくて書くことができない。
- (12) ユウキンアッケン ヨサツノハカデン ヒトリデ イカユツヨ
勇気があるから夜のお墓でも一人で行くことができる。
- (13) ドキョウン アッケン ラブレターデン カカユツト
度胸があるからラブレターでも書くことができる。

【内的条件可能】

- (14) キョウワ タイチョウン ワルヒテ シゴトニヤ イカエンヨ
今日は体調が悪いから仕事に行くことができない。
- (15) キョウワ キブンノ ワルヒテ オヨガエンヨ
今日は気分が悪いから泳ぐことができない。
- (16) キョウワ タイチョウン ヨカケン ナンジカンデン オヨガツユツヨ
今日は体調がいいから何時間でも泳ぐことができる。
- (17) キョウワ ウレヒカケン イッダデン ウタワユツヨ
今日はうれしいからいくらでも歌うことができる。

【状況可能（外的条件可能：おもに主体による行動決定不可）】

- (18) ビンセンノ ナカモンノ、アシタワ テガミワ カカエンヨ
便せんがなくてあしたは手紙を書くことができない。
- (19) カギバノ ナカヒチョッモンノ アシタワ キンコワ アケヤエンヨ
鍵をなくしたのであしたは金庫はあけることができない。
- (20) メザマシドケイン アットデ ハヨウ オキヤユツヨ
目覚し時計があるので早く起きることができる。
- (21) デントウン アカルカケン、チイサカジデン ミラユツヨ
電燈が明るいので小さな字でも見ることができる。

II. 「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」

【能力可能（道具、場所）】

- (22) コンヘヤワ 100ニンシカ シュウヨウサレンヨ
この部屋は100人しか収容することができない。（場所の能力）
- (23) コンエンピツ ケズチャ キレイニ ケズラルッヨ
この鉛筆けずりはきれいにけずることができる。（道具の能力）

【状況可能（外的条件可能）】

- (24) イマワ ヨウジン アッケン、ユウビンキョクニ イカレン
今は用事があるから郵便局に行くことができない。

- (25) ビンセンノ ナカケン、テガミワ カカレン
便せんがなくて手紙を書くことができない
- (26) デントウン アカルカケン、シンブンバ ヨマルッヨ
電燈が明るいので新聞を読むことができる。
- (27) イソガシカ シゴトノ スンダテン、コノゴロワ ハヤク ネラルット
忙しい仕事ですんだので、このごろは早く寝ることができる。
- (28) カギン アットナラ、アケラルッヨ
鍵があればあけることができる。

【主体以外の属性可能】

- (29) コンサカナワ ドクノアッケン タベラレンヨ
この魚は毒があって食べることができない
- (30) コンナイフワ ナンデン キラルッヨ
このナイフは何でも切ることができる。
- (31) コンマンネンヒツワ スラスラチ カカルッヨ。
この万年筆はすらすらと書くことができる。

Ⅲ. 「～キル（～キッ）／～キラン」

【能力可能（人間以外（道具・場所を除く））】

- (32) コンクレーンワ 30トンイジョウンモンワ モチアゲキランヨ
このクレーンは30トン以上の物は持ち上げることができない。
- (33) コンハシワ 10トンイジョウン オモサバ（ワ） ササエキランヨ
この橋は10トン以上の重さを支えることができない。
- (34) コンサボテンナ ハナバ サカセキッヨ
このサボテンは花を咲かせることができる。

3.3 岐宿における可能態の表現形式

長崎県岐宿町の男性（76歳）では、可能態は「～ユル（ユッ）／～エン」、「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」、「～コッノデクッ／～コッノデケン」の三つの形式が使用されている。三形式は主に表3のように使い分けられる。

否定（不可能）の場合、「内的条件」および「能力可能」は上接語との間に助詞「は」を挿入して、やや強調する形「ヨミヤエン」（読むことはできない：ヨミ+ハ+エン→ヨミヤエン）が使われる。

「能力可能」、「心情可能条件」、「内的条件可能」、「状況可能（外的条件可能）」では、主に「～ユル（ユッ）／～エン」が使われるが、「状況可能（外的条件可能）」の一部は、「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」が使用されている用例が少数ではあるがみられた。これらは、個人的な条件に限定しない、一般的な条件とも考えられる場合である。

またもう一点特徴的な点は、「主体以外の属性可能」と「場所や道具の能力可能」が「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」で表わされることである。ただし、回答者によれば、「主体以

外の属性可能」の一部は、「～ユル (ユッ) /～エン」でも表わすことが可能だということである。

その他に、「能力可能 (総称)」も「～ユル (ユッ) /～エン」でも表わされるが、回答者によれば「～コッノデクッ/～コッノデケン」の方がより自然な表現になるということであった。

表3 岐宿における可能態の表現形式

表現形式	可能の分類	用例
Ⅰ「ユル」：「～ユル (ユッ) /～エン」	能力可能	(35) (36) (37) (38)
	心情可能	(39) (40) (41) (42)
	内的条件可能	(43) (44) (45) (46)
	状況可能 (外的条件可能)	(47) (48) (49) (50)
	主体以外の属性可能	(57) (58)
Ⅱ「ラル」：「～(ラ) ルル (～(ラ) ルッ) / (～ラ) レン」	能力可能 (場所・道具)	(51) (52)
	状況可能 (外的条件可能：一般的な状況)	(53) (54) (55)
	主体以外の属性可能	(56) (57) (58) (59) (60)
Ⅲ「～コッノデクッ/～コッノデケン」 / 「ユル」：「～ユル (ユッ) /～エン」	能力可能 (総称)	(61) (62)

表4 岐宿における可能態の意味とその表現形式

	ユル	ラル
能力可能	○	○
心情可能	○	×
内的条件可能	○	×
外的条件可能	○	△
属性可能	△	○

○：使用形式、×：非使用形式、△：使用されるが用例数が少ない

Ⅰ. 「～ユル (ユッ) /～エン」

【能力可能 (人・人以外に関する能力可能)】

- (35) サカズッ イッピヤグリヤン サケナリヤ ワタイゼンノンユッ
盃一杯ぐらいの酒なら、私だって飲むことができる。
- (36) オツガモトン マゴハ ヒトツゼ キモンバ キッユッ
うちの孫は一人で着物を着ることができる。
- (37) ワタシャ ウマレツキ カラダン ユオッセ オヨギヤエン
私は生まれつき体が弱くて泳ぐことができない。
- (38) コンハシャ 10トンイジョウン オモサワ ササエヤエン
この橋は10トン以上の重さを支えることができない。

【心情可能】

- (39) ユウキン アッテン ヨサツノハカゼン ヒトツゼ イッユッ
勇気があるから夜のお墓でも一人で行くことができる。
- (40) ドキョウン アッテン ラブレターゼン カッユッ
度胸があるかラブレットでも書くことができる。
- (41) ヨサツノ ハカヘンニヤ オトロスツセ ヒトツジャ イキヤエン

夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない。

- (42) オッガモトン イモトワ ハンカヒモンジャケン ラブレターナンチ カキャエン
うちの妹ははずかしがりやだからラブレターなんて書くことができない。

【内的条件可能】

- (43) キョウハ ウレヒカテン イッダゼン ウタツユツ
今日のはうれしいからいくらでも歌うことができる。
- (44) キョウ ウレヒカコッノ アッタテン アヒタワ オヨダリヤ キット スイスイ オヨンユツ
今日うれしいことがあったから明日は泳いだらきつとすいすい泳ぐことができる。
- (45) タロウワ アヒバ ケガシチェ オヨギヤエン
太郎は足をけがして泳ぐことができない。
- (46) ワタシャ ユツバ コッセツシチョツチェ アヒタワ パソコンバ ウタヤエン
私は指を骨折していて、明日はパソコンを打つことができない。

【状況可能（外的条件可能）】

- (47) ビンセンノ ナカッセ テガンニヤ カキャエン
便箋がなくて手紙を書くことができない。
- (48) カギバ ノウナラキヤタツゼ アケヤエン
鍵をなくしたのであけることができない。
- (49) メザマヒドケイノ アットゼ ハヨ オキツユツ
目覚まし時計があるので早く起きることができる。
- (50) イマハ ジカンノ アッテン ユウビンキョキ イツユツ
今は時間があるから郵便局に行くことができる。

II. 「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」

【能力可能（人間以外：道具、場所）】

- (51) コン エンピッケズリヤ ギツパニ ケズラルッ。
この鉛筆削りはきれいに削ることができる。
- (52) コン ヘヤワ 100人 イレラルッ。
この部屋は100人収容することができる。

【状況可能（外的条件可能）】：個人的に限定しない一般的な状況による可能／不可能

- (53) キョウワ ユウエイキンシン ハタン タッチョッテン オヨガレン
今日は遊泳禁止の旗が立っているから泳ぐことができない。
- (54) コンキモンニヤ コモナツタツゼ モウ キラレン
この着物は小さくなったのもう着ることができない。
- (55) デンキン アッカツゼ シンブンバ ヨマルッ
電燈が明るいので新聞を読むことができる。

【主体以外の属性可能】

- (56) コンサカナワ ドクン アッチェ クワレン
この魚は毒があって食べることができない。
- (57) コンナイフワ ナンゼン キルッ／キユッ。
このナイフは何でも切ることができる。
- (58) コンナイフワ ツカワルッ／ツカユッ。
このナイフは使える。(=役に立つ)
- (59) コンマンネンヒツワ スラスラ カクッ／カカルッ
この万年筆はすらすらと書くことができる。
- (60) コンジュースワ ノムッ／ノマルッ。
このジュースは飲める。(=うまい)

Ⅲ. 「～コッノデクッ／～コッノデケン」

「能力可能（総称）」は「～ユル（ユッ）／～エン」でも表わせるが、回答者によれば、「～コッノデクッ／～コッノデケン」の方がよりふさわしいという回答を得ている。

【能力可能（総称）】

- (61) ペンギンニャ ソラバ トンコッノデケン／トビャエン
ペンギンは空を飛ぶことができない。
- (62) ニンゲンニャ ミライノコッパ カンガユッコッノデクッ／カンガエユッ
人間は未来のことを考えることができる。

4. 福江と岐宿の方言における可能態の表現形式

4.1 潜在可能

福江と岐宿で可能における表現形式に違いがみられたのは「人間以外の能力可能」、「状況可能（外的条件可能）」、「主体以外の属性可能」である。

福江方言では「能力可能」は「人間の能力における可能」か「人間以外の能力における可能」かで線引きされ、人間に関わる場合は「ユル」で、人間に関わらない場合は「ラル」「キル」で表わされる。岐宿方言では「能力可能」は基本的には「ユル」で表わされ、人間以外の道具や場所の能力は「ラル」で、総称は「ユル」でも表わせるが、「コトガデキル」の方がより自然となる。「主体以外の属性可能」はどちらの地域も基本的には「ラル」で表わされるが、岐宿では一部「ユル」でも表わすことができる。「状況可能（外的条件可能）」は、福江では基本的には「ラル」で表わされ、主体による行動決定不可の場合は「ユル」となることもある。一方、岐宿方言では、基本的には「ユル」で表現されるが、ごく少数の用例で「ラル」となった。また両方言とも、「心情可能」と「内的条件可能」は「ユル」で表わされる。

表5 福江と岐宿の可能態の表現形式

表現形式	可能の分類	福江	岐宿	
I 「ユル」：「～ユル（ユッ）／～エン」	能力可能	生得（人間・個体）	○	○
		獲得（人間・個体）	○	○
		人間以外	×	○
		総称	○	○
	心情可能	○	○	
	内的条件可能	○	○	
	状況可能（外的条件可能）	△	○	
主体以外の属性可能	×	△		
II 「ラル」：「～（ラ）ルル（～（ラ）ルッ）／（～ラ）レン」	能力可能（場所・道具）	○	○	
	状況可能（外的条件可能）	○	△	
	主体以外の属性可能	○	○	
III 「キル」：「～キル／～キラン」	能力可能（人間以外）	○	×	
IV 「コトガデキル」：「コッノデクッ・デケン」／「ユル」：「～ユル（ユッ）／～エン」	能力可能（総称）		○	

表6 福江と岐宿における可能態の意味とその表現形式

	キル		ユル		ラル	
	福江	岐宿	福江	岐宿	福江	岐宿
能力可能	○	×	○	○	○	○
心情可能	×	×	○	○	×	×
内的条件可能	×	×	○	○	×	×
外的条件可能	×	×	△	○	○	△
属性可能	×	×	×	△	○	○

○：使用形式、×：非使用形式、△：使用されるが用例数が少ない

4.2 実現可能

実現可能の場合、福江と岐宿の両方言とも、基本的には「～ユル（ユッ）／～エン」が使用されており、どちらの地域の方言においてもあまり「ゆれ」はみられなかった。岐宿方言の場合、潜在可能と同様に否定（不可能）の場合、「内的条件」、「能力可能」は上接語との間に助詞「は」を挿入して、やや強調する形「ヨミヤエン」（読むことはできない：ヨミ+ハ+エン→ヨミヤエン）が使われる。

(63) 昨日あの山に登ろうとして途中まで行ってみたけど、体力がなくて頂上まで行くことができなかった。（能力可能）

（福江）キノウ アンヤマニ ノウボロウチ トチュウマデ イッテミタバッテン タイリョクン
ノシテ チョウジョウマデ イカエンジャッタ

（岐宿）キノ アンヤミヤ ノボッチシチェ トチュウマン イチェミタバッチェ タイリョノ ノ
ヒチェ チョウジョウマン イキャエンジャッタ

(64) 昨日勇気を出してやってみたら泳ぐことができた。（心情可能）

（福江）キノウ ユウキバ ダヒミタラ オヨガエタヨ

（岐宿）キノ ユウキバ ダヤッ ヤッチェミタリヤ オヨンエタ

(65) 三日も休んだんだから、疲れも取れて、明日は絶対最後まで走ることができる。（内的条件可能）

（福江）ミッカモ ヤスنداッジャモン ツカレモトレッ アスワ ゼッタイ サイゴマデ ハシラ

ユッヨ

(岐宿) ミッカモ ヤスنداッジャッテン ツカレモトレッ アスワ ゼッタイ サイゴマン ハ
シッユッ

(66) あの本は時間がなくて最後まで読むことはできなかった。(状況可能 (外的条件可能))

(福江) アノホンナ ジカンノ ノシテ サイゴマデ ヨマエンジャッタ

(岐宿) アンホンニャ ジカンノ ノヒチェ サイゴマン ヨミヤエンジャッタ

5. 今後の課題

今回、福江と岐宿の二地域で一名ずつの調査であったが、今後さらに同地域の様々な年代の方言話者を対象に被調査者数を増やして調査をおこない、年代的な変化を見ていくと同時に、富江町、玉之浦町、三井楽町、及び上五島の各地域の調査をおこない、それぞれの地域差および年代差による可能態の表現形式についての検証をすすめていきたいと思う。

注

① 長崎県福江市方言の可能の意味 木部 (2004: 12)

	～キル	～ユル	～(ラ)ルル
能力可能	○	○	○
内的条件可能	○	○	○
外的条件可能	△	×	○

長崎市方言の可能の意味 木部 (2004: 12)

	～キル	～(ラ)ルル	可能動詞
能力可能	○	×	○
内的条件可能	○	×	○
外的条件可能	△	○	○

参考文献

- 九州方言学会 (1969) 『九州方言の基礎的研究』 風間書房 pp. 94-97, pp. 218-225, pp. 274-274
- 上村孝二 (1970) 「五島列島方言の表現文法」 『文学科論集』 6号、鹿児島大学法文学部 (井上史雄・篠崎晃一・小林隆・大西拓一郎編 (1999) 『九州方言考③ (長崎県)』 日本列島方言叢書25、ゆまに書房 再録)
- 郡家真一 (1976) 『五島方言集』 国書刊行会
- 愛宕八郎康隆 (1978) 「肥前長崎地方の「～キル」「～ユル」について」 『長崎大学教育学部人文科学研究報告』 27, pp. 135-144
- 古瀬順一 (1983) 「五島の方言」 『講座方言学 九州地方の方言』 pp. 173-206 国書刊行会
- 神部宏泰 (1987) 「九州方言の可能表現法－その存立と特性－」 『兵庫教育大研究紀要』 7-2号所収 pp. 159-174
- 井島正博 (1991) 「可能文の多層的分析」 仁田義雄 (編) 『日本語のヴォイスと他動性』 pp. 149-189, くろしお出版
- 神部宏泰 (1992) 『九州方言の表現論的研究』 和泉書院 (第6章 第1節「九州方言における可能表現～形式の隆替と表現特性～」)
- 重枝武雄 (編著者) (1992) 『長崎方言便覧 (長崎ことば)』 長崎人文社

- 篠崎久躬（1997）『長崎方言の歴史的的研究—江戸時代の長崎語—』長崎文献社
- 平山輝男（編者代表）（1998）『日本のことばシリーズ42 長崎県のことば』pp. 20-21、pp. 35-36明治書院
- 渋谷勝己（2002）「可能」pp. 7-27、大西拓一郎（編）（2002）『方言文法調査ガイドブック』（1998-2001年度、科学研究費研究成果報告書、研究代表者：大西拓一郎）
- 出口久人（2003）『五島 岐宿方言集』川口印刷株式会社
- 九州方言研究会編 木部暢子（編集責任者）（2004）『西日本方言の可能表現に関する調査報告書』pp. 11-13
- 永澤済（2004）「式根島方言の可能形式2種の意味領域 - 「能力可能」と「一般可能」 - 』『日本語文法』4巻2号 pp. 169-185くろしお出版
- 渋谷勝己（2006）「第2章 自発・可能」『シリーズ方言学2 方言の文法』pp. 47-92岩波書店
- 工藤真由美、八亀裕美（2008）「全部たべれなかった 可能をいかに言い表すか」『方言からはじめる言語学 複数の日本語』8. pp. 135-153 講談社
- 謝辞 お忙しい中、長時間今回の調査にご協力いただいた『五島岐宿方言集』を編纂された岐宿在住の出口氏、および福江在住の筑田氏に深く感謝いたします。